

R4年度 学校教育自己診断結果報告並びに考察

質問項目の変更

今年度の実施にあたり、別添の下線部の箇所は昨年度より質問項目を変えています。

- ・出来るだけ質問を具体的に焦点化
- ・学校経営計画の具体的取り組みに対応

集計方法について

- ・回答数における比率を算出する方法のみとした。
- ・A:「よくあてはまる」+B:「ややあてはまる」を「肯定的評価」と捉える（従来どおり）
- ・C:「あまりあてはまらない」+D:「まったくあてはまらない」を「否定的評価」と捉える。
- ・「肯定的評価率上位3位」、「肯定的評価率が10%以上上昇」、「学校経営計画に目標指標が設定されている項目」、「新設した項目」の4点について着目してみた。

回収率

令和4年度

保護者 72.2% (小学部 75%、中学部 60%、高等部 60%)

教職員 100%

令和3年度

保護者 65.9% (小学部 70.2%、中学部 65.1%、高等部 62.0%)

教職員 100%

教職員の回収率は、今年度も100%を達成した。保護者の回収率は昨年度65.9%から6.3%上がった。

今後も周知を徹底し、配付方法を工夫する。わかりやすい標記を心がける等、引き続き、保護者が提出しやすいような工夫を検討し、回収率がさらに上がるようにしたい。

○保護者 130名回答 (回収率 72.2%)

33項目の質問に対して20項目で肯定率80%を超えていた。(昨年度20項目)。

肯定的評価率上位3位

1位【肯定率98.5%】《R3 97.3%》

「学習の内容・学校生活の様子を懇談や学級(学年・部)通信、連絡帳などによって知ることができる」

2位【同96.2%】《R3 91.1%》

「学校は教育方針や教育情報について提供の努力をしている。」

3位【同95.4%】《R3 94.6%》

「教職員は子どもの障がいについて理解してくれる」

が肯定率の上位3つの項目となっている。

このことから、保護者の教職員に対する信頼度が高いことが分かり大変嬉しいことである。

肯定的評価率が10%以上上昇

①「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(感じている)。」

(肯定率85.4%)《R3 74.1%》

②「授業参観や、学校行事に参加したことがある。」

(同90%)《R3 72.3%》

①「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(感じている)。」

では、1人1台端末を始めとしたICT機器の活用を積極的に行った結果が表れていると考えている。しかし、一方で「学校は子どもに1人1台端末(タブレット型PC)等を効果的に活用している。」の項目では肯定的意見が50.4%と目標指標の65%を達成することがかなわず、課題の残る結果となった。次年度はより具体的な1台端末(タブレット型PC)等の効果的な活用実践を情報発信していく必要があると考えている。

②「授業参観や、学校行事に参加したことがある。」

については、今年度新型コロナウイルス感染症の影響による行事の中止等がなく、全て実施することができたことが肯定率の上昇につながったと考えている。さらに、今年度から「参観週間」として授業参観の機会を新たに設定した。こちらも保護者アンケートの結果、好評を得ることができた。次年度は、感染予防を徹底し、要望の多かった給食の時間の参観を実施できればと考えている。

学校経営計画に目標指標が設定されている項目

- 「学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている。」では、肯定率 81.5%《R3 76.8%》、否定率 3.1%で、目標指標の 80%を達成することができた。日々の連絡帳や懇談等で丁寧な情報共有を心掛けてきた結果が評価されたのではないかと考えている。また、PTA 施設見学会において、参加した保護者の数が昨年度よりも多く、参加された保護者のアンケートでも肯定的な感想が多かったことなどが、この結果につながったと考察する。
- 「学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している。」では、肯定率 68.5%《R3 66.1%》、否定率 2.3%で、目標指標の 75%を達成することができなかった。昨年度に比べ、肯定的意見 2.4%増加、否定的意見 0.4%減少と多少の改善は見られたが目標値には届かなかった。今後は事故防止に向けて、施設・設備の点検、修繕改善を迅速に進めていかななくてはならないと考えている。
- 「学校のホームページを閲覧・活用したことがある。(学校ブログ等)」では、肯定率 63.8%《R3 67.9%》、否定率 24.6%で、目標指標の 75%を達成することができなかった。昨年度に比べ、肯定的意見 4%減少、否定的意見 1.4%増加と課題の残る結果となった。今年度、各学年の学年通信に・Rコードを貼り付けることで、ホームページそのものの認知が上がり、閲覧の機会は増えたことと思う。しかし、ブログなどを「閲覧」していても、「活用」という部分では実用的ではなかったのではないかと考えている。今後は、より保護者にとって有益な情報の発信のツールとして活用していければと考えている。また、閲覧数をより正確に集計するために行事などの時期に合わせて閲覧数の記録を行うなどの工夫をすることも必要と考えている。

新設した項目

- 今年度設問に追加した「学校はホームページの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている。」では肯定率 60.8%、否定率 7.7%であった。新設のため前年度比較はできないが、先に記した、「学校のホームページを閲覧・活用したことがある。(学校ブログ等)」と同様に次年度はより肯定的にご意見を頂けるようにしていきたい。

○教職員 105名回答(回収率 100%)

49項目の質問に対して 20項目で肯定率 80%を超えていた。(昨年度 16項目)。

肯定的評価率上位3位

1位【肯定率 95.5%】《R3 68.6%》

「生徒一人一人が適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行っている。」

2位【同 93.3%】《R3 93.3%》

「定期的に防犯教育・防災教育が実施されており、日常の諸活動の中で事故防止のための安全指導が実施されている。」

3位【同 90.4%】《R3 90.5%》

「指導要録、健康診断表、保護者案内文書等の收受、発送、保管に対する管理がなされている。」

3位【同 90.4%】《R3 89.5%》

「個人情報保護の観点から、児童・生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。」が肯定率の上位3つの項目となっている。

肯定的評価率が10%以上上昇

①「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」

(肯定率 79.8%)《R3 66.7%》

②「生徒一人一人が適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行っている。」

(同 95.5%)《R3 68.6%》

③「教職員は、積極的にPTA活動に参加している。」

(同 40.4%)《R3 29.5%》

①「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」に関しては、他の教職員の関係性に関する項目でも肯定的意見の上昇、または、否定的意見の減少が見取れることから、教職員の関係性に関しては良好を保っていると考えられる。次年度は、肯定的意見が80%を超えられるよう教職員の教育活動に関する意見交換や会話の機会が取れる場の設定ができればと考えている。

②「生徒一人一人が適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行っている。」では、中学部・高等部の教職員対象ではあるが肯定率が全体の一位となっており、教職員から最も賛同いただけていると考えられる。また、各学年の進路指導部の教員が先頭に立ち学級担任と連携して、生徒の適正に合った実習及び進路先の検討や調整を行った結果が今回の結果につながったと考えている。

③「教職員は、積極的にPTA活動に参加している。」は肯定的意見が10%上昇しているとはいえ、49項目中最も肯定的意見が低い項目であり、本校の解消すべき課題である。前年度は、コロナ禍の影響を強く受け、PTAの会議自体の中止も複数回あった。だが、今年度は月1回の会議や5月のPTA総会も実施することができた。委員活動も概ね以前の形でできていることから、保護者対象の学校教育自己診断では肯定的意見を増加させることができた。しかし、今年度PTA主催の大きな行事(秋まつり・クリスマス会、バザー)については、前

年度に引き続き中止することとしていること等もあり、まだ、本来の活動は行えていない。しかし、今年度実施した進路に関する講演会においては保護者からご好評をいただいたことから、次年度は活動を復活させつつ、保護者のニーズに合った活動を行っていき、肯定的意見の増加をめざしたい。

学校経営計画に目標指標が設定されている項目

- ・「児童・生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われ、うまく機能している。」では、肯定率 69.2%《R3 62.9%》、否定率 22.1%で、目標指標の 65%を達成することができた。今年度新たに全校教科会を新設した結果、肯定的意見が 6.4%上昇したと考えられる。
しかし、全校教科会を行った結果、「各学部の学習内容等に重なりがあることを改めて認識した。」などの意見もあり、22.1%の否定的意見という決して低くはない否定的意見も出た。今後、各学部の連続性を意識しながらのカリキュラムマネジメントを実施していくことで肯定的意見をさらに増やすことができると考えている。
- ・「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。」では、肯定率 65.4%《R3 60.0%》、否定率 25%で、目標指標の 65%を達成することができた。
「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」についても記したように教職員の関係性に関する項目でも肯定的意見の上昇、または、否定的意見の減少が見取れる。しかし、この項目に関しては決して肯定的意見が高いといえる数値ではないため、やはり、次年度は教職員の教育活動に関する意見交換や会話の機会が取れる場の設定が必要と考えている。
- ・「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」では、肯定率 79.8%《R3 83.8%》、否定率 7.7%で、目標指標の 85%を達成することができなかった。今年度「自立活動の目標設定」等をテーマに研修を行った。しかし、事情によって研修の実施時期が予定より遅れてしまった。そのため、目標設定が終えてからの研修となったことが原因の一つと考えられる。また、教職員の業務の複雑化により「工夫・改善」に充てる時間の確保が難しいという意見もあった。業務の軽減及び標準化に向けて検討をしていくことが必要と考えられる。
- ・「1人1台端末を活用して、自らの授業で協働的な学びの支援を行ったことがある。」では、肯定率 75%、否定率 17.3%で、目標指標の 75%《R3 81.0%》を達成することができた。否定的意見が 6.8%増加した。今年度 ICT を活用した授業の研修と実践レポートを提出してもらったことにより、「協働的な学び」という言葉の意味が深く理解してもらった結果と考える。全教員がこの言葉と向き合った今年度を基準にして、今後の実態を捉え、より改善していけるようにしていきたい。
- ・「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。」では、肯定率 68.3%《R3 61.9%》、否定率 17.3%で、目標指標の 65%を達成することができた。今年度の重点的取り組みの一つとして、今まで取り組んできている「見える化」をよりよくする方法を考えてきた。今までは、用紙記入のご協力を全体にアナウンスするのみであったが、今年度は誰が受けているかが分かりやすいように法廷研修者を中心に、該当教員を輪番制で直接書いてもらえるように協力を仰いだ。その結果、多くの教員にご協力していただき、例年よりも多くのご意見をいただくことができた。また、掲示に関しても、より見えやすくなるように工夫をして貼り出したことで多くの教員の目に留めてもらえる結果になったと考える。今後はより協力してもらいやすくなるように、なるべく簡単に答えてもらえる方法を考えるとともに、より様々な研修を他教員に伝えられるように工夫していきたい。
- ・「近隣の小・中・高等学校との交流の機会を積極的に設け教育活動全般に生かしている。」では、肯定率 63.5%《R3 70.5%》、否定率 20.2%で、目標指標の 75%を達成することができなかった。昨年度に比べ、肯定的意見が 7%減少し、否定的意見が 4%上昇する結果となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまで行ってきた交流活動が難しくなったことが一因と考えられる。今後は、これまでの活動の再開と「with コロナ」の中で行える交流活動の画策をしていく必要がると考えている。